

【出題の基本方針】(全日程共通)

- 1 大学での学びに必要な(基礎的な)英語力がどの程度身についているかを測る。
- 2 会話の流れを理解する力、および会話でよく使われる表現に関する知識を測る。
- 3 語彙や表現、構文に関する知識を運用し、英語で書く力を測る。
- 4 英語の長文の要旨を把握する力を測る。

【各設問の方針と内容】(全日程共通)

問	出題意図	配点
1	<p>派生語を書かせることで、英語の語彙力の基礎とそれを支える接尾辞の知識、ならびに品詞に関する理解度を測る。このような問題を出すことによって、受験者は準備の段階で、品詞についての基礎知識を身につけることができる。それが、大学入学後の英語読解や検定試験(TOEIC, TOEIC Bridge, 英検など)を扱った授業などで出てくる語法・文法解説を理解する上でも役に立つ。</p> <p>*いわゆる受験時だけでなく、大学入学後および大学卒業後も役に立つ英語の基礎知識を、準備学習を通して受験者に身につけさせることを意図している。</p>	10
2	<p>会話を読んで理解し、その流れ・文脈に合った選択肢を選ぶ問題である。まず、会話の流れや内容を理解できるかを測る。同時に、選択肢には会話でよく使われる語彙や表現が含まれており、それらの意味や用法を知っているかどうかを測る。</p>	20
3	<p>カッコの中の単語を適切に並び替え、文章を完成させる問題である。カッコの中の選択肢を並び替えて文を完成させるには、語彙、文法、構文、語法に関する知識が要求される。基礎的な文法、構文、語法に関する知識を身につけているか、そしてそれらを運用・応用できるかを測る。</p>	20
4	<p>与えられた日本語を英語に訳す(英語で表現する)問題である。受験者が身につけている語彙や表現、構文を運用し、英語で書く力を測る。正解は一つではなく、受験者は与えられた日本語を自分なりに解釈し、それを自身が身につけている語彙や表現、構文を応用しながら自分なりの英語で表現できるかどうかを測る。</p>	25
5	<p>長文読解問題。時事に関する英語長文を読み、内容をどの程度理解できるかを測る。長文、および選択肢の英語を正しく理解するために必要な語彙、文法、構文に関する知識が要求される。</p>	25